



No. 22
平成24年12月20日
発行
多治見市教育研究所
URL:<http://www2.city.tajimi.gifu.jp/~kyoiku/x/>

本紙は多治見市教育研究所のホームページ上でもご覧いただけます。

卷頭言

将来の 人口推計

映画「オールウェイズ3丁目の夕日」の舞台は昭和30年代です。集団就職や東京タワーの建設といった時代の中、何度も挫折しながらも、夢をもって前を向いている登場人物が涙と楽しさで描かれた心温まる話です。

この昭和30年ころの日本的人口は約9,000万人、岐阜県の人口は約158万人でした。その後、経済成長とともに日本の人口は1億2,000万人、岐阜県は210万人にまでなりました。

ところが「岐阜県政策研究会」が平成24年3月にまとめた人口推計（下記のグラフ）によると、県の人口は2005年ころから減少を続けており、2040年には約158万人となり、現在より50万人の減少になると推計がでています。多治見市の現在の人口は11万くらいですから、多治見市5つ分の人口減になるわけで、かなりの減少です。

またこの158万人という人口は、先ほどの昭和30年ころに近いので、そのころの生活や経済規模に戻って慎ましく暮らしていくようになるのかと思いまや、まったく違う人口構成

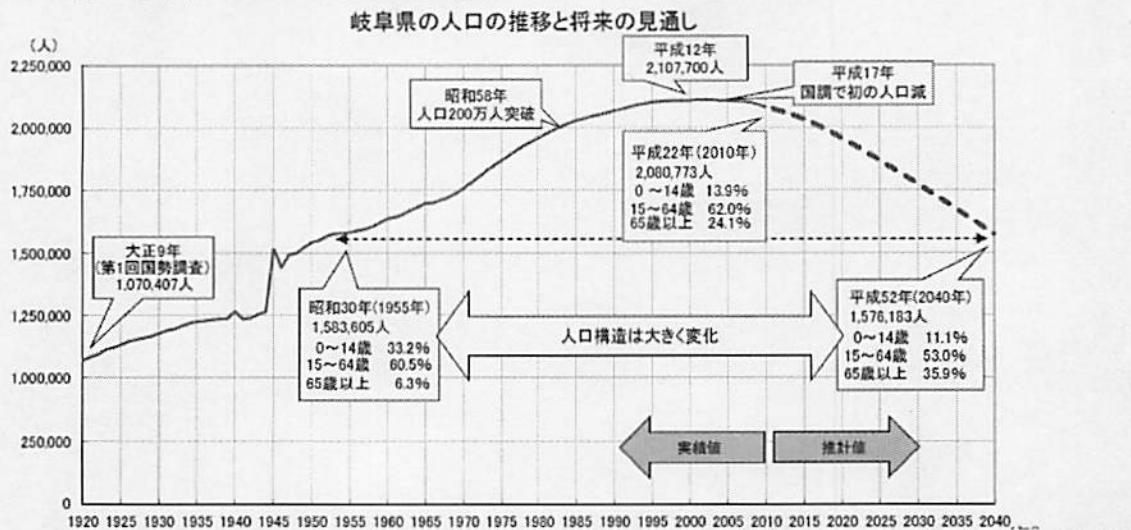
東濃教育事務所長
本多 弘尚

になっていることがわかりました。0~14歳の年少人口は、33%→11%と3分の1となり、代わりに65歳以上の老人人口は、6%→36%と6倍になるというのです。人口構造が大きく変わらぬなか、子どもは将来への力としてますます大切な存在になってきます。

今までも、身近なところでは学校へ入学してくる子どもの数が毎年減っていたり、学校の統廃合の話題を聞いたりして“少子化”を感じつつも、実感としてなかなかわからないままでした。

しかしこの数字を見て今後の学校像を思うと、いったいどうなっていくのか、どうしていくのがいいのか、学校だけでなく社会全体で考えていかなければなりません。

映画で「何年先だって、ずっと夕日はきれいだよ」という内容のセリフがありました。社会の変化のなか、子どもたちがふるさと多治見に対する誇りや愛着をもち、「学校は楽しい」と感じ学べる教育が将来もずっと続いてほしいと思います。



研究発表(平成23・24年度多治見市教育委員会指定) ありがとうございました

多治見市立明和幼稚園

平成24年11月20日(火)

多治見市教育課題研究発表会が明和幼稚園で行われました。多くの参観者を迎えての研究発表会になりました。

研究テーマ及び研究内容は、以下のようです。

<研究テーマ>

健やかな心と体を育む

～一人一人が充実感が味わえるような環境構成と指導援助のあり方～

<研究内容>

○幼児理解の方法

○個の捉えを生かした環境構成の工夫

○個の育ちを支える援助のあり方

明和幼稚園では、発表会を迎えるにあたって、16回も園内研を積み重ね、まさしく実践を通じた地道な研究を行ってきました。

その中で、明らかとなった明和幼稚園の研究の成果を3点紹介します。

- 「いきいき遊び」「体トレ」の有効性を子どもの姿で実証できたこと
- 幼児理解の方法を明らかにし、的確に個が捉えられるようになったこと
- 環境と指導援助の二つの側面から、有効な手立ての方法を明らかにしたこと



【元気いっぱい見立て遊びをする園児】

多治見市立滝呂小学校

平成24年11月29日(木)

11月29日には、多治見市教育課題研究会が滝呂小学校で行われました。研究テーマは「仲間との「対話」を通して考え方を練り合い、深め合う授業をめざして」でした。次の2点を今回の発表会の大きな成果として紹介します。

- ①児童の実態を具体的に捉え、その手立てである「対話」を共通理解して研究を進められてきたこと
- ②「対話」のある授業を、教科の本質に照らして、取り組んでこられたこと

①「聞く力が弱い」と分析した児童の力を付けていくために「対話」を主たる手段として活用されました。その必然性・形態・評価等、研究の軸として取り上げた「対話」をより具体的にされました。特に、対話を構成する「話す・聞く・書く」活動の中で大切にされた「聞く活動」については、実態を踏まえ、比較・

質問・要点・統合・感想などをキーワードとして「聞き分ける」指導を進め成果を上げることができました。

②対話を「自分の考えを仲間との練り合いを通して深め合う学習活動」と位置付け、研究を進められました。そして、各教科では、教科の本質に照らして、テーマを設定し、具体的な「対話」のイメージをもつことができました。だからこそ、教科のねらいへより迫ろうとする児童の姿を「対話」を通して見ることができました。

滝呂小学校で学ぶことができた内容を、「自分の教科ならば」「目の前にいる児童ならば」という視点で、各学校でも活用していきたいものです。



研究発表(平成23・24年度多治見市教育委員会指定) ありがとうございました

多治見市立精華小学校

平成24年11月16日(金)

11月16日には、多治見市の指定とともに、東濃地区教育推進協議会指定発表を兼ねた授業公開、交流会が精華小学校で行われました。

研究主題、内容は下記の通りです。

<研究主題>

意欲的な追究と感動のある学習の創造

～言語活動の充実を通して～

<研究内容>

- 単元指導計画の工夫
- 指導方法の工夫
- 評価の工夫

精華小学校では、各教科部で上記研究内容を、授業実践を通して、何度も練り直し、よりよいものをつくりあげてきました。

特に言語活動の充実では、各教科等の目標を実現する手として研究を進めました。東濃地区の研究校と



して、発表された内容・成果は、小学校教員の力量をあげていくための「ヒント」がたくさんありました。各校へもちかえり、児童の実態に合わせて、「アレンジ」することで、個々の力量がさらに高まつていくと思います。

また、後半には、「実践交流会」が行われました。多治見市からの実践発表だけでなく、東濃各市から、授業研究を意欲的に進めている先生から、発表及び研究討議が行われました。研究討議では、よりよい授業にしていくために、熱い議論が繰り広げられていました。

多治見市立小泉中学校

平成24年10月23日(火)

小泉中学校は、研究主題を「学ぶ喜びを実感できる授業づくり」として、ご発表いただきました。本年度より中学校において新しい学習指導要領が全面実施となり、小泉中学校においても「生きる力をはぐくむ」ことを意識し、研究を進めてこられました。発表会当日は、「わかった」「できた」という喜びを実感している生徒の姿を多く見ることができました。

また、注目したいことは、昨年度発表していただいた平和中学校の取組を活かした発表であるということです。多治見市の教育課題をその学校だけの課題として捉えるのではなく、多治見市の課題として捉え、継続的な研究を進めていただきました。

小泉中学校の研究の大きな成果は、①先生方が、生徒の実態を的確につかみ、指導・援助に活かしていたこと、②必然性のある学習を仕組まれたこと③よりよい学び合いを作り出すための工夫をしてみえたこと④「わかつ

た」ことが実感できる評価の工夫がみられたことです。



特に、支援表を十分に活用し、生徒の実態をつかみ、個別の指導に生かしてみえた姿はどの授業でも拝見することができました。支援表を活用した意図的指名、計画的な机間指導等、一人一人の生徒を大切にして、授業を進めてみえる小泉中学校の先生の誠実さが伝わってきました。

評価の工夫においては、自己の伸長や変容に気付き、次の時間への意欲が継続する生徒が増えていったことが実感できました。この研究も、多治見市の課題としている自己肯定感を高めていく取組につながっていくものでした。

これらの実践は「明日からの授業」にすぐに取り入れることのできる素晴らしいものでした。それぞれの学校で実践を深めていただこうと期待しています。

初任者の先生の紹介

教師として歩みはじめて①



「どうあるべきか」 陶都中学校

樹下 貴普

教育の「プロ」としてどうあるべきか。去年からずっと自分に問い合わせてきました。子どもや保護者からすれば、初任者、ベテラン関係なく、みんな同じ先生です。教育の「プロ」なのです。「自分は初任者なので分かりません」では通用しない世界です。プロであるということに誇りと責任をもって職務に就かなくてはいけません。でも、正直今の自分はまだまだプロとは言えない部分ばかりです。教科指導、生徒指導、部活指導、いろいろな場面で自分の未熟さや弱さを痛感しています。しかし、小さい頃から憧れていた教職によるやく就くことができました。子どもたちと接する時間は本当に楽しいです。様々な感動があります。これが教育の「プロ」のみが味わえる喜びなのだと思います。プロとして恥じることのないよう、日々精進していきたいと思います。



「毎日を楽しめること」 多治見中学校

畠 早苗

教師としての生活が始まり、不安や失敗、授業がうまくいかず悔しい思いをしたこともあります。しかしそれ以上に楽しいこと、嬉しいことがたくさんありました。それは私が一人ではなく、支えてくださる人たちがいてくれるから、感じられることでした。

いつも優しく相談にのってくれる先生方、私の体調を心配してくれる家族、そして生徒たちの笑顔に支えられています。特に授業で「わかった！」と笑顔で言ってくれた時は、本当に嬉しいです。一人ではないから、不安も楽しさに変えていける。そして何よりも、自分自身が成長していくことが嬉しいです。

今の自分にできることを精一杯やりきり、毎日笑顔を大切にしながら過ごしたいです。そして、これからも周りの方への感謝の気持ちを忘れずに、成長するために努力していきたいです。



初めての学級担任 南ヶ丘中学校

小原 瑞樹

私は今年の4月から初めて学級担任をもつことになりました。教科担任としての経験しかない私にとっては、果たして自分などに務まるのだろうかという不安でいっぱいでした。しかし、自分の学級の子ども達と毎日一緒に過ごすうちに、不安になっている暇などない、ただ毎日生徒とともにやるべきことをやり、言うべきことを言うだけだ、ということに気付きました。そして予想以上に体力を消耗する仕事だということを痛感しました。しかし、教科担任だけでは味わうことのできなかった子どもとの心のつながりも感じができるようになりました。これが担任をもたせていただくことの喜びであると感じました。今後も大変なことがたくさんあると思いますが、私の周りには良きアドバイスをしてくださる先生方がたくさんいらっしゃるので心強いです。



「繋がりを大切に (養護教諭として)」 笠原中学校

山田 唯

学校の中で、教室とは違う保健室という場を活かしながら、子ども達とも、職員とも繋がりのある保健室にしていきたいです。例えば、委員会の活動等を通して子ども達と保健室が繋がることで、健康安全への意識を高め、自発的に活動ができる姿を目指したいです。

また、悩みなどを背景に、様々な問題を抱え保健室にやってくる子ども達が多い中、そつと寄り添い話を聞いてあげることなど、たとえ小さなことでも何か1つその子へのケアができれば良いなと思います。

そして、その中で感じたことや気付いたことを保健室だけに留めず、先生方にも報告・相談し、連携していくことで、よりよい支援へと繋げていきたいです。

初任者の先生の紹介

教師として歩みはじめて②



栄養教諭になって
滝呂小学校
柴田江里

栄養教諭になって約9ヶ月が過ぎました。衛生管理やアレルギー対応、食に関する指導等、毎日が勉強で新鮮でした。給食訪問では、はじめ児童にどのように接したらいいのか不安でした。しかし、何度も指導に入り児童と顔を合わせることで、「給食おいしいよ。」「いつもありがとうございます。」という声を聞くことができ、今では私の方による励みになっています。児童達のために安全でおいしい給食を今後も提供しなくてはいけないと感じています。今後、児童達のことを第一に考え、行動できるような栄養教諭を目指していきたいです。まだまだ未熟者で知らないことばかりですが他の先生方をお手本に、1日でも早く1人前の栄養教諭になれるよう努力していきたいです。



「学校事務職員として働き始めて」
平和中学校
松井 志穂

多治見市の学校事務職員として勤務早9ヶ月が過ぎました。毎日が分からぬことばかりで不安ですが、学校事務職員は学校に一人しかいない職種なので責任ある仕事だと感じています。

そんな中で、私は平和中学校で勤務がでて本当によかったです。私が困っていると職場の先生方は「去年は〇〇だったよ」といったアドバイスをくださいます。そして私が知らないところでいろんなフォローをしてくださっています。それがすごく嬉しいです。

これからは、少しでも事務の仕事を多く覚えて、私が職員の皆さんを支えることができるよう努力をしていきたいと考えています。

教育相談室より クリスマス訪問によせる願い

多治見市教育委員会では12月中旬に、プレゼントを携えて県内各地の特別支援学校を訪問しています。クリスマスを控えている時期ですので、クリスマス訪問と称しています。今年度、特別支援学校に通学している多治見市内在住のお子さんは58名です。内訳は、岐阜盲学校2名、中濃特別支援学校1名、関特別支援学校2名、可茂特別支援学校7名、東濃特別支援学校44名、恵那特別支援学校2名です。

本当にささやかなプレゼントですが、特別支援学校側に配慮いただき、個人や代表に手渡しています。同様な事例として各小中学校におきましては、居留地交流や運動会・学習発表会への招待など、心温まる交流を実施されている報告を受け取っています。今後とも交流を継続していただくよう、お願ひいたします。

平成23年度のクリスマス訪問は、計6校70名でした。今年度は、計6校58名です。少子化の時代ですので、特別支援学校在籍人数の減少は当たり前なのですが、「地域の学校へ通わせたい」という保護者の方の願いがあることも確かなことです。

特別支援学校にお子さんを通わせている保護者の方の中に、「地域の子ども達と一緒に育ってほしい」、「地域の子ども達に覚えておいてほしい」という願いをお持ちの方もみえます。このような状況のなかで、障がいの程度や医療的ケア、将来の社会での自立も考えた上、特別支援学校を選択されるわけです。

各小中学校におかれましては、今後とも地域の全ての児童生徒の健やかな育成をめざしご理解とご支援をお願いいたします。



研究所だより

教師塾セミナー「パワーアップセミナー」

平成24年12月13日(木)

脇之島小学校にて笠原小樋口校長先生を講師にお迎えして、「第1回パワーアップセミナー～図画工作（版画）～」を開催しました。パワーアップセミナーとは、学校で行われる校内研修（日時・内容）を全小・中学校の先生方に案内し、専門的な知識、技能を身に付けていただくためのセミナーです。その第1回目が、市内小中学校の先生方25名に御参加いただき行われました。

樋口校長先生からは、日頃の図画工作指

導で大切にすると良いことをはじめ、子どもの発達の「過程」に応じた版画指導の在り方を丁



寧に教えていただきました。紙版画の指導では、できあがった部分がはがれることを防ぐために、のりではなく水で溶いた木工用ボンドを使用すると良いことや、インクの染み込みすぎを防ぐために、版にニスを塗つておくと良いことを教えていただきました。

木版画では、丸刀や三角刀の使い方、板がずれないための方法等を実技を交えて説明していただきました。その後、先生方も彫りを体験されました。

1時間という短い時間でしたが、大変中身の濃いセミナーとなりました。

第2回パワーアップセミナーは平成25年2月19日(火)養正小学校にて「理科教育」に関わるセミナーを開講します。申し込み等の詳細な案内は後日、送付いたします。

情報モラル教育～ネット活用の光と影～

ここ数年、県教委が行っている調査では、携帯電話の所持率は、頭打ちの状態です（小学生で所持率約13%前後で推移：中学生所持率：約26%前後で推移）。携帯電話（含：スマホ）を持たない児童・生徒はネットに接続していないかというとそうではありません。デジタル音楽プレイヤー、ネット接続型携帯ゲーム機、最近ではデジタルカメラでさえメールやホームページを閲覧できるものもあります。

機器の進歩とともに、ネットの活用方法も少しづつ変わってきています。例えば、調べ学習でインターネットを活用する場面があると思います。学校でも家庭でも、子ども達は「上手」に活用をしています。一方で「ナレッジコミュニティーサイト」とよばれるホームページを活用して宿題を進めることもあります。具体的には掲示板へ学校で出された宿題を下記のように書き込みます。

□に当てはまる数を求めなさい。

(1) 400人は□人の25%です。

(2) 40mの180%は□mです。

質問日時: 2011/1/23 19:11:28

すると、この解答を下記のように、ネット上の誰かが書き込んでくれます。

(1) $25\% = 25/100 = 1/4$ 400人は、□人の4分の1ということです。線グラフを書くと…(略)

回答日時: 2011/1/23 19:23:29

注目は質問と回答日時です。質問をしてからわずか「12分後」には解答があることです。これを児童はノートへ書き写し、宿題として提出していることが考えられます。単元末テストを行い、点数と普段の宿題とのギャップを感じた時には、注意を払う必要があるかもしれません。